

学 会 報 告

第3回環境経済学世界大会、 環境経済・政策学会 2006 年大会

林 岳

今年7月の第一週に京都で環境経済学世界大会が開催された。この大会は環境資源経済学会（AERE）、ヨーロッパ環境資源経済学会（EAERE）、ラテンアメリカ・カリブ環境資源経済学会（ALEAR）そして日本の環境経済・政策学会（SEEPS）という4つの環境資源経済学分野の学会が共同で開催し、世界各国から環境経済学分野の研究者が集まる非常に大きな大会である。大会は4年に一度サッカーのワールドカップと同じ年に開催され、今回が3回目である。

この大会は経済学の見地から地球環境問題にアプローチする社会科学分野ではかなり大きなものであるため、セレモニー等で挨拶するのも著名人が多く、開会式では秋篠宮殿下がご挨拶され、またカンファレンス・ディナーでは小池環境大臣（当時）が流ちょうな英語でスピーチしていた。マスコミの関心も高く、地元の新聞をはじめ、夜の地域ニュースでも大会の開催が報じられていた。

私は世界大会と同時開催された国内学会である SEEPS の年次大会で報告した。例年、国内の環境経済学分野の研究者がこぞって報告し、活発な議論が行われるこの学会も、今回だけは世界大会の陰に隠れ、2会場で報告セッションが行われた程度の小規模なものであった。さらに、私の報告したセッションは、5日間の大会期間で最終日の最終セッションということもあり、多くの参加者は帰途についてしまい、セッションのほとんどの聴衆が報告者かその関係者という中で報告することとなった。したがって、今回の報告はそれほど活発な議論もなく、淡々と終わったという印象である。

海外からの世界大会参加者は、やはり日本の文化・風習に関心があるらしく、私も会場

で知り合った参加者から日本について質問攻めにあってしまった。子供達が制服を着て歩いているが、学校の夏休みはまだ始まらないのか、日本人は神社や仏閣に毎週通ってお参りをしているのか、コンビニに絵はがきを置いていないが、日本人は旅先から絵はがきを送ることはしないのかなどなど。普段我々が全く疑問に思わないことでも、彼らには不思議に感じるが多いらしく、こちらも答えに窮する質問もいくつかあった。

さて、今回の世界大会には、かつて私が籍を置いていた OECD 事務局からもユシ（Jussi）とアンドレア（Andrea）という二人の若手研究者が参加していた。私は彼らとの再会を喜ぶとともに、日本初訪問の二人を京都の観光名所などへ案内した。

ある時、ユシが日本でスニーカーが買いたいと言ってきた。ナイキやアディダスのスニーカーはフランスの半額近くで買えるのだそうで、私は観光途中に偶然見つけたスポーツ用品店の位置を彼の地図に記してあげた。後日尋ねてみると、目的のスニーカーは買うことができたらしい。ただ、店で試し履きしたとき、店員にその辺を一回り走ってきていいかと尋ねたところ断られたらしく、スニーカーの履き心地は走ってみたいとわからないと不満げだった。

翌朝、さっそく彼は新品のスニーカーで京都市内へジョギングに出かけたそう。スニーカーの履き心地も上々で良い買い物をしたとのこと。実際に使うまで商品の評価を下さない、こんなところにヨーロッパ人の実益主義的な考え方を垣間見た気がした。